

赤ちゃん製造工場

“グィィー————ン”

“ガチッガチッ……バチンッ”

多種多様の機械が24時間作動し続け、各工程は延々と循環し続ける。

ここは、

“赤ちゃん製造工場”

“グィッ！！グィー——ッ！！”

“ガガガンッ！！バチバチッ！！”

こういった機械音は大音量で凄まじいため、工場の外にはその音だけが響いていることだろう。

しかし……。

「ああ！！んはああ！！あああああ！！」

「あはああん！！気持ちいい！！！」

内部ではむしろこの“肉声”がこだまし続けている。

この喘ぎ声は、熟した女性・若いピチピチの女性に関係なく、妊娠能力を有した人間の女性たちの声だ

まぎれもなく人間の声、生物の声だが、言わばこの声すら工場内の“生産過程”で生じる“音”である。

人間の“肉”という生産機械で生み出すのは“子供”つまり赤ちゃんだ。

世は少子化がもはや社会問題の枠を超え、人類的な危機にすらなりうるような深刻さ。

政府は解決策を探し、悩み抜いた結果、倫理道徳を無視した強引な政

策を実行した。

内容は、

“一定の地域ごとに工場を設け、若い女性を集め、有志の男性を集めて種付けを行い子供を大量生産させる”

というものだ。

工場内では基本的に、ライン（ベルトコンベアー）形式で女性を順繰り、裸で待ち構える男性たちのもとに送っていく。

種付けをするのは性欲旺盛な若い男性たちだ。

ペニスをピンピンに勃起させた男性たちの作業は、自分の目の前に送られてきた女性の穴に挿入し、精液を注入するというシンプルなものだ。

「んはぁ！！ビュルルルルッ！！ビュルルルルッ！！」

突き出されたお尻。

女性たちは、人の入る大きさに区切られたスペースと固定する装置によって強制的にその格好にさせられている。

あらわになった割れ目。その位置も、立ってペニスをヒクつかせる男性陣が挿入するのに丁度ぴったりの位置。

「ああん！！んはぁあ！！あ・・・んくうっ！！んふあはぁ！！」

「ウッ！！ウッ！！ウッ！！」

「ズブッ！ズブッ！ズブッ！ビュルルルルル！！」

出した後も、まだまだ種液が大量に有り余っている若い男性たちは休憩すら取らずに作業を続ける。

肉棒と言うポンプでの子作り作業に励み続けるのだ。

———体験版はここまでです———